

# 北河内自然愛好会 会報

2015年4月20日 №.93  
北河内自然愛好会発行  
事務局 大東市野崎 3-7-7  
西畑敬一 方

ホームページアドレス：<http://www.cc-net.or.jp/~ja3aeh/3shizen/3-3kitakawati.htm>

北河内自然愛好会 2015年総会 2015年1月31日(土) 午後2時～4時30分交野市 太田 理

◎総会議事(14:00～) ( )内は担当者・敬称略

1. 開会宣言 2. 西畑敬一会長挨拶 3. 2014年度行事報告(太田 理) 4. 2014年度会計報告(稲原良三) 5. 2015年度行事計画(太田 理) 6. 2015年度予算案(稲原良三) 7. その他 8. 会長・会計・運営委員選出・紹介 9. 会員発表(14:30～16:30) 「日本百名山、夫婦で終えて」稲原良三さん、「この種(たね)の花はどれでしょう?」田中光彦さん 10. 閉会宣言(16:30)

◎2014年度行事報告( )内は担当者・敬称略

1月第354回例会 1/19「天野川沿いの野鳥観察」交野市(平 研) 2月2014年度総会 2/1 3月第355回例会 3/21「長居植物園の草木歴史散歩」大阪市(稲原良三) 4月第356回例会 4/13「下田原の里山」大阪自然環境保全協会「里山一斉調査」と共催(太田 理) 5月第357回例会 5/18「大阪府都市緑地保全地区・川中邸の屋敷林観察」東大阪市今米(岡田雅彦・太田 理) 6月第358回例会 6/15「有馬富士公園植物観察」兵庫県三田市(西畑敬一) 7月第359回例会 7/12「飯盛山」大東市(田中光彦) 8月休会 9月第360回例会 9/15「淀川観察会」枚方市牧野～樟葉(木村雅行) 10月第361回例会 10/11「キノコの観察会」交野市私市・大阪市立大学附属植物園(田中光彦) 11月第362回例会 11/30「摂津峡」高槻市(西村寿雄) 12/7 運営委員会・懇親会 交野市にて

◎2015年度例会年間予定 ( )内は担当者・敬称略、日は暫定)

1月 1/31(土) 2014年総会 14:00～16:30 交野市立保健福祉センター(交野ゆうゆうセンター)  
2月 363回例会 2/15(日) 鶴見緑地で野鳥観察(平 研)  
3月 364回例会 3/21(土・祝) 究極の生き残り法・野草を摘んで食す(太田 理)  
4月 365回例会 4/12(日) 里山一斉調査・下田原の里山(太田 理)  
5月 366回例会 5/6 金剛山植物観察(田中光彦)  
6月 367回例会 6/12 夜のミニ観察会・交野南星台のホテルを見に行こう(平 研・稲原良三)  
7月 368回例会 夜のミニ観察会・見れば感動のセミ羽化の瞬間・星田妙見宮(中町荅子・中山千代美)  
(内容変更になっています。例会案内をご確認ください。)  
8月休会 9月 369回例会 キノコ観察会(西畑敬一) 10月 370回例会 未定(木村雅行)  
11月 371回例会 地層観察(西村寿雄) 12月 運営委員会

◎総会内容について：◇今年度は6月、7月にミニ観察会が企画されました。運営委員会で話し合われて、1日出るのはちょっと・・・と思われる方もおられるのでは?ということ。ずっと以前にそのような観察会があって、当時はオプション的なもので1日観察会とは違って気軽に参加できるもののようなものでした。ただ、今回は夜の観察会になります。◇会報のカラー化が実現します。92号で試作しましたが、当面はカラーグラビア版として別刷りになります。本文記事に合わせながらご覧いただくことになります。◇会員発表、稲原さんの日本百名山登頂のお話は圧巻でした。北海道・利尻岳から屋久島・宮之浦岳まで、ご夫婦で湧きあがる感動と並々ならぬご苦労を共にされたご様子。話に引き込まれまし

た。田中さんの植物クイズ。皆さん楽しそうに解答、答合わせに一喜一憂していました。(太田 理)  
◎参加者：稲原良三・ヒサエ、太田理、岡田三千代、岡田雅彦、岡本美恵子、北川ちえこ、木村雅行、鈴木永子、平 研、高見君江、武田孝子、田中光彦、田中英明、長島照文、中山千代美、西畑敬一、波多野恵子、発ひとみ、古沢千恵、松下昭、美藤ルミ子、山田晃、山田良之 (以上 24 名)

◎懇親会出席者 10 名

第 363 回例会 「鶴見緑地で野鳥観察」会に参加して 2015 年 2 月 15 (日) 森南山岳部

野鳥観察に都心部へ向かって、JR 学研都市線と地下鉄長堀鶴見緑地線で乗り継ぎ、久しぶりの鶴見緑地公園へ。野鳥観察会にもかかわらず交野の田舎から大阪市内へと移動する。朝から変な感じでそわそわと、心が落ち着かない。毎年、恒例だった天野川沿いの野鳥と自然空間に慣れて、都会への足運びに不安があるのであろう。案の定、京橋乗り換え時点で反対方向行きの地下鉄に飛び乗ってしまい、次の駅で下車、門真方向行きに乗り直し鶴見緑地駅に着く。地上に出ると大阪市内とは思えない開放的な公園の木々と空の広がりを見ることが出来た。自然と落ち着くことが出来る。

いつもご指導いただく平さんから主な鳥の写真入りの「鶴見緑地の野鳥リスト」を戴き、会員 10 名余りの皆さんと園内に。昼夜解放された公園で大きな大池を中央に、周囲に大芝生、花棧敷、花の谷、バラ園やお花畑の丘を配した 126ha の大きな空間です。

もちろん、観察会の中心エリアに集まる鳥を目指してメタセコイアの大通りを中央の大池に、まあ、なんとカモを中心としたたくさんの水鳥が池のいたるところにいます。200 羽くらいはいるのでしょうか。とても素人には数え切れません。池のほとりには数名の方が餌を撒いて餌付けをされるといっせいに鳥が集まります。“環状線のホーム”のように餌に向かって混雑の中を水面から沈む餌を掬い上げて食べています。餌撒きが一段落すると拾い損ねて沈んだ餌を水かきのある鳥がお尻を上、頭を水中にしてあたかもシンクロナイズドスイミングの様に美しい均整の取れた光景が見られます。美脚ではなく羽毛に包まれた暖かそうなふくよかなお尻をいくつも水面に残して餌を食べる光景は思わず微笑んでしまいます。

餌に集まる水鳥を羽毛の色、模様、姿形の特徴、大きさ、について平さんが解説してくださいました。名前を識別できるように特徴を解説しながらの説明です。繰り返し、繰り返し記憶と理解を確認します。しかしながらオスとメスの特徴に共通性が乏しく、繰り返し暗記するしかないな一と言うのが素直な感想でした。それでも、特徴が飲み込めてくると楽しく観察でき、うれしく、意欲が出てきます。

大池にいたカモ類はホシハジロ、キンクロハジロ、ヒドリガモ、オナガガモ、カルガモ、など。また、周辺の陸上エリアでの確認も含めてオオバン、バン、ユリカモメ、メジロカモメ、コサギ、アオサギ、ハクセキレイ、キジバト、ドバト、メジロ、ムクドリ、シジュウカラ、コゲラ、ヒヨドリ、ツグミ、シロハラ、ジョウビタキ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、アオジなど。

説明を受けた主な特徴

ホシハジロ・・・くちばし黒に灰色の帯、♂赤栗色の頭・黒い胸・灰色の体、♀全体褐色・顔に淡模様

キンクロハジロ・・・目が黄色、♂腹部白・他は黒・冠羽長い、♀全体黒褐色・脇淡い・冠羽短い

ヒドリガモ・・・くちばし灰色・頭部全体濃い茶褐色、♂頭上黄白色

オナガガモ・・・首と尾が長い、♂尾が著しく長い・頭部チョコレート・首胸白・上くちばし両側青鉛色、♀くちばし灰色・くちばし上面黒

カルガモ・・・♂♀同色・他のカモの♀に似た褐色・顔淡色黒線 2 本・くちばし黒く先端橙黄色

オオバン・・・体が黒い・額とくちばし白

バン・・・くちばし基部から額は赤い・泳ぐ時に首を前後に振る、

コサギ・・・黒いくちばし・黄色の足指

ユリカモメ・・・目の後濃褐色の斑点

§§平さん追記 (例会報告の写真をご覧ください)

1、オナガガモの採餌＝オナガガモは首が長いカモで、逆立ちして沈んだ餌を採餌しています。そこにいるヒドリガモ、ホシハジロは口が届かず諦めています。生きものの生きる姿ですね。

- 2、カモメの採餌＝ユリカモメが抛りあげられた餌を空中で巧みにキャッチしています。カモも空を飛べるのに空中キャッチは出来ず、この採餌には参加できずにいます。生きものの生きる姿ですね。
- 3、池の中のアオサギ＝嘴がピンク色に変わってきています。繁殖期に入りつつあるのです。やがて、もっと色濃く肢もピンクになります。生きものの生きる姿ですね。
- 4、池の中のコサギ＝見事な水鏡（自分の姿を写して繁殖期に備えて身づくろいする、とりたいです）。生きものが見せる自然の美しさですね。

### §§太田追記

私は午後からの参加です。大池の畔で何と水鳥が水辺に上がって来ています。オナガガモの羽毛が間近に見られて、とても美しく、へえ〜っ?!こんなに繊細な模様をしているのかとしげしげと眺め入るのみでした。ほんとうに美しく何故ここまでの装いをするのか、不思議な感じでした。それにしても、鳥たちは餌を求めて人間に近付いて来ている。本来の野鳥は、室池の水鳥などはほとんど 100 メートルぐらい近付くとスーッと逃げて行きます。その姿を双眼鏡で今のはマガモかな?キンクロハジロは?今日はオシドリは見えないな、などと冬の水鳥の姿を追いかけています。鶴見緑地の水鳥はぐっと距離を短縮してくれて、楽しかったです。その後園内の散策をして、鶴見緑地の自然を楽しみました。

◎観察した野鳥：オナガガモ、ホシハジロ、ヒドリガモ、オオバン、バン、キンクロハジロマガモ、カルガモ、ユリカモメ、カワウ、セグロカモメ、アオサギ、コサギ、カワラヒワ、スズメ、ヤマガラ、シジュウカラ、コゲラ、メジロ、ムクドリ、ヒヨドリ、ツグミ、シロハラ、ジョウビタキ、アオジ、ハクセキレイ、キジバト、ドバト、ハシボソガラス、ハシブトガラス（以上 30 種）

◎参加者：稲原良三、犬伏百合子、太田理、久保幸子、鈴木永子、平 研、高見君江、西畑敬一、美藤ルミ子、福間幹也、須川勝恵

### 第 364 回例会記録 「究極の生き残り法・野草を摘んで食す」四條畷市 2015 年 3 月 21 日（日）

中原賢治

稲原の父母の紹介で、兄姉姪っ子二人の吹田一家と共にご一緒させて頂きました中原賢治です。妻理恵、息子裕大・寛次郎の家族 4 名を代表致しまして拙筆ながらこのレポートを書かせて頂きます。

この度は知的好奇心そそられる健康的で楽しい会に家族一同参加させて頂き誠にありがとうございます。子連れの新参加者でしたが、皆様から暖かく接して頂き、また子供のペースに合わせて頂きましたこと、心からお礼申し上げます。

さて、今回参加させて頂きました観察会の「究極の生き残り法・野草を摘んで食す」と言うテーマですが、正直なところそれを読んだ時に非常な興奮を覚えました。

私はかつて学生時分にワンダーフォーゲル部と言う登山を主な活動とするクラブに入っており、北アルプスをおよそ 2 週間かけてテント泊で縦走するなどしておりました。

食料は自分達のパーティー（4~8 名）が担いでいける分のみと言う部の規則があったのですが、入部 1 年目の夏合宿で属したパーティー（先輩 3 名と私を含めた計 4 名）では昼食は各自持参ということになり、経験も知識もなかった私は自分の荷物の軽量化のためにその昼食の部分を大幅に削ってしまいました。結果 2 週間あまりの内に 5kg 程度痩せ、飢え死ほど非情なことはないのではと思わされるちょっとした疑似体験をしました。米研ぎは最下回生の仕事でしたが一度宿営地から水場が離れていた時にはわからない程度に生米を盗み食いし、たまに出会う愛くるしいはずの雷鳥の親子が唐揚げに見えそうになったりしました。

北アルプスでは森林限界を超えたルートが多いながらもハイマツは至る所に生い茂っており、塩かマヨネーズでもかければこの葉っぱが何とか食べられないものかと山行中何度となく考えていました。

この様な次第で、「食べられる野草の知識」と言う響きに大変そそられる部分が個人的にあり、また今回リュックにマヨネーズを忍ばせたのはこうした経緯によるものです。

いよいよ当日、天候にも恵まれ春めいてきた田原の里山で始まった観察会ですが、自然と触れ合い知的で楽しい会話豊かな紳士淑女の集いが実際こうしてあること、またテーマを持った野外活動の人間力を養う上での有用性を知りとても素晴らしいことだと感じました。私が育った土地ではかつては田んぼが沢山あり、稲刈りの済んだ田んぼは暗黙の了解で子供たちの遊び場になっており色々な楽しい思い出が沢山あります。今回子供たちが田んぼを身近に感じる姿は大変嬉しい光景でしたし、外遊びの中に野の草花を通して知らず知らずの内に学びの姿勢を持っていたこと、また集める草花を大人と同様子供たちにも分担したことで役割りや責任感をそれぞれが自然と意識している姿を見て取ることができました。

そうした中観察し採取した野草ですが、まず「ホトケノザ」と一般的に認識されているものと実際春の七草で食べられるものの違いについて学んだ知識は今後七草粥を食べる時にこの観察会の情景と共に思い出されることでしょう。また時を同じくして食べられない方の「ホトケノザ」を下に向けて持ち、花の部分を見ると薄赤紫色の小さいウサギに見えると教えて頂いたことは、昔は大人（どちらかと言えばおじいさんやおばあさん）から子供に伝えられていた古き良き口承文化の一端を垣間見た気がしました。

観察会に参加するまでは、食べられる野草とそうではないものとの区別は美味しく食べられるかそうではないかによる違いだと思っていたのですが、「山ミツバ」に似ているが「キツネノボタン」には毒がある、また食べられる「ヤブジラミ」に似てはいるが「ムラサキケマン」も危険といったことをご教授頂いたことで、飢えをしのぐにはその辺にはえている草を我慢して食べれば良いのではと簡単に考えていたことが下手をすれば中毒を起こして逆に命取りになるのだと言うことを知る機会となりました。

その他にも様々な食べられる野草またそれに付随する事柄を教えて頂き、野外活動センターにおきましては手間ひまかけて美味しく調理して頂いた野の草花は野性味あふれる味わい深さがありました。

後日談にはなりますが、どの野草に薬効があったのかはわかりませんが確かに整腸作用が認められましたので報告致します。現に良く効く証拠が名前の由来との「ゲンノショウコ」と言う薬草につきましても道中教えて頂きましたが、副作用がつきまとう医薬品にばかり頼るのではなく自然の恵みによって安心して体質改善を図ることができるこの様な野草に今一度何かしらの可能性を見出し、脚光を浴びるべき存在ではないかと感じ大変興味を持ちました。

以上、この度の体験は個人的に非常に意味深いものとなりました。西畑会長はじめ、この観察会でご一緒させて頂きました皆様方に改めてお礼申し上げます。

終わりに、観察会ののち今までは道端の雑草に過ぎなかった野草が「あっ、あの時の」と目が止まるようになり、先日も駐車場のブロック塀とアスファルトの隙間からはえていた「タネツケバナ」を見つけ、家族で「これ、マヨネーズつけて食べれるやつやな」と話題になりました。野草が我が家の共有できる話のネタになった瞬間でした。

§§北川さん追記：シュンランは2個ありそのうちの一つは田中さんか誰かの許可を得ていただきました。家で、しゃぶしゃぶにしてそのまま食べましたが、くせない味でどんな調理にでもあうと思いました。もう一つは、他の会から来ていた方で、年配の方で帰りは歩いて帰られた方です。ちなみに、ツリガネニンジンもその方がもって帰られました。いずれも少ないので調理しないとされました。ヤブタバコは結構たくさんあったと思います。たくさん食材があったので、仕分けしていたものも途中で止めたものがありその中にギシギシもあったのではありませんか。他にも、イヌガラシやハハコグサなど使わなかったものがあります。全ての食材を写真におさめるつもりでしたが、もたもたしているうちに調理され、意外と撮っていたものは少なかったです。以上が北川が覚えている所です。残り物を家に持って帰り全てしゃぶしゃぶでそのまま食べましたが、ノコンギクが一番美味しかったです。これがヨメナだったかもしれません。スイバとスマレの酸味も美味しかったです。来年もお願いします。

◎摘んで食した野草：ヨモギ、スイバ、カラスノエンドウ、スカシタゴボウ、レンゲ、ツクシ、コオニタビラコ、ヤブタビラコ、ヤブジラミ、ハコベ、ウシハコベ、カキドオシ、スイカズラ、タネツケバナ（マヨネーズあえのサラダ風）、ヤブカンゾウ（茹で）、ツバキ（花）、タンポポ（花・葉）、スマレ（花）、アザミ、ミツバ（茹で）、セリ（茹で）、クレソン、ニワトコ、ベニシダ、ギンナン（野生種ではないが一応採取したので）、稲原さんたちに作っていただいたよもぎ餅。あと持ち込みとして、ホトトギス（茹で）、ナノハナ（茹で）、ノビル（茹で）フキノトウ（茹で）、フキノトウ（天ぷら）、サツマイモ（もらい物）。その他摘みはしたが、少ないか何かで食さなかったのが数種、シュンラン（花）、トトキ（ツリガネニンジン）、ヨメナ、ギシギシ、イヌガラシ、ハハコグサ、アオキなど。（長島さん追記）

◎参加者：太田理、北川ちえこ、鈴木永子、田中光彦、長島照文、大重文恵、西畑敬一、発ひとみ、稲原良三・ヒサエ、中原賢治（大東市）・りえ・ゆうだい(子)・かんじろう(子)、吹田弘一（京都府長岡京市）・章恵・詩子(子)・琴子(子)（以上当会）、秋津武甫、神明美、金子恵久子、黒澤典子、澤田文子、清水美波留、泰地将人、細木美恵子（以上田原の里山自然観察会）（合計 26 名）

第 365 回例会 「下田原の里山」 四條畷市下田原 2015 年 4 月 12 日 太田 理

大阪自然環境保全協会との共催、「里山一斉調査 四條畷・田原の里山コース」は今年で 21 年目を迎えた。1994 年四條畷市田原台、車の行き交うニュータウンの道路でキツネが車に轢かれて死んでいた。そのことを保全協会に通信し、大阪府内ではキツネは珍しいと、翌年 95 年から調査ポイントになった。近くにキツネの巣穴も見つかった。以来キツネのフィールドサインはよく見つかっている。イノシシのラッセル跡が山道の道端あちこちにあり、タヌキ、イタチ、テン、リス、ノウサギ、ネズミなど里山の動物のほとんどが確認された。シカの食痕や糞も見つかった。（ある時の下見で“ピューッ”とシカの鳴き声も聞こえ、逃げるお尻が見られた！）。コマドリの“ヒンタラララ・・・”と鳴く声も聞かれたこともあった。そして、2010 年にカスミサンショウウオの卵のうが見つかり、以来毎年その生息を確認している。カスミサンショウウオは、生息地の開発による破壊、外来生物の脅威等により環境省絶滅危惧Ⅱ類（大阪府レッドリストではⅠ類）、キツネも大阪府では絶滅危惧Ⅰ類に指定されている。

保全協会の調査も今年で 33 年になるが、当初は「里山動物調査」であった。ノウサギやリスは運が良ければ見つかることもあるが、昼間はなかなか姿を見せてくれない。そこでフィールドサインのフン探しや食べ跡探しとなる。我が家の子どもも良く一緒に参加し、意外と子ども目線で動物のフンや食べ跡を見つけていた。40 歳になる娘が時折孫を連れて帰って来るが「フン探しなんか、ようやったなあ。」と話題になることがある。ちなみにその孫はドングリにはまっている。

さて、今回の調査でどんな出会いがあるか楽しみにしていた。のっけから国道の歩道の隙間から紫色の可憐なスマレ。セイヨウタンポポとカンサイタンポポの違いは？などなど話をしながら山道に入る。今年もミツバチの巣箱が置かれていて、ニホンミツバチがぶんぶんと羽音をたてていた。イノシシのラッセル跡（鼻で土を掘り返し、虫やミミズを捕食している）があちこちに。残念ながらリスの食痕のエビフライは見つからなかったが、尾根道にリスの巣が 2 か所見つかった。寝屋川から参加している人がリスを目撃したと言っていた。

尾根道から降りて来たところで鳥の死骸を発見。くちばしが長く、それぞれに「これはシギやろな？」「何シギやろか？」と言っている時に、T さん大きな声で「これはフシギ！」と言ったので一同大笑い。（ヒット!ヒット!）田中さんが優しくビニール袋に入れ、翌日自然史博物館に持って行ってくれました。4/13 田中メール「今日は長居の博物館にヤマシギの死体を寄贈してきました。鳥の和田先生によると、大阪市内でもビルのガラスに衝突して死んだヤマシギが何点かあるが、山の中での死体は今回が初めてだと思います、というコメントでした。留鳥で、目立たないがそこそこいるとのことでした。」薬尾寺池

の堤防ではウサギのフンがあちこちに。

そして例年観察しているカスミサンショウウオの水溜りへ。このところ毎年水溜りが泥や落ち葉で埋まってしまうので 1~2 月に泥上げをしている。ところがその後何回か見に行くも卵が見えない。やっと 3 月 12 日に「卵あったで一。」と西畑会長が ML で知らせてくれました。先週の下見の時は見つからず心配していました。去年は 30~40 ほどの卵のうがあったが、今年は 2 つ、それでも確認ができてほっとした。

堂尾池の畔で昼食。ヤブカンゾウの酢味噌和えをいただき、美味しかった。そこでまとめの会をして、皆で今日の成果を確認し合いました。キツネのサインは見つからなかったものの、ピンク色鮮やかなコバノミツバツツジに始まり、ヤマザクラ、可愛いチゴユリやショウジョウバカマ、いくつものスマレなど田原の里山の豊かな自然を満喫した一日でした。そして嬉しいことに、地元の女子中学生がお母さんと初めて参加してくれました。地元の小・中学校では農業体験学習や地球温暖化防止・里山再生活動の環境学習に積極的で、またビオトープ田原里山の会が中心となって進めているホタルの保護育成の活動など、田原の里山の素晴らしい自然を守り育てるニューパワーを発揮してくれたらと期待しています。

§§感想文「里山一斉調査に参加して」 立川美砂子、紅葉（四條畷市田原台）

晴天にも恵まれスタート。中学 3 年生の娘と 2 人で参加させて頂きました。リーダーの太田さんは、娘が通う小・中学校の校外学習などでお世話になった事もあり、娘自身大変楽しみにしていました。いつも当たり前に通っている自宅周辺に、こんなにも沢山の植物や樹木が有り、野生の動物が生息している形跡があるのにびっくりしました。砂の中から湧き出てくる水がこんなにも冷たいなんて、娘と共に驚くばかりでした。

山桜、ツツジ、すみれ、野うさぎ、猪、リス、カスミサンショウウオなど話せばキリが有りませんが沢山の生き物が生息しているんですね。

お弁当とお茶以外ほとんど手ぶら状態だったので、常連参加者の方にループをお借りして花のガクや花卉や花びらの柄など肉眼ではなかなか見れない部分を見たのですが、感動するぐらい、とても綺麗で、なんだか心温かくなりました。

運動不足の私にとって山道の一部キツイ所も有りましたが程よく汗もかき、お腹も空いてきた所で皆さんと一緒に昼食。高級ディナーやランチをいただくより贅沢な昼食でした。大自然の中で年齢層問わず皆さんと楽しく会話をしながらの昼食、最高でした。初参加の私達親子に参加者の皆さんが声をかけてくださったり、昼食後には温かいコーヒーまでいただきました。

娘のお目当ては山のエビフライ（リスの食痕）だったのですが残念ながら、この日は見つける事が出来ませんでした。次回に期待したいと思います。長くなりましたが、普段以上に娘とコミュニケーションも取る事が出来て有意義な一日を過ごす事が出来ました。小鳥のさえずりを聞きながら優しい心に包み込まれながら山を後にしました。ありがとうございました。

◎確認した動物：イノシシ、リス、ノウサギ、モグラ類、ネズミ類、カスミサンショウウオ、ニホンアカガエル、カナヘビ、トカゲ

◎確認した鳥類：アオジ、ウグイス、エナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コゲラ、シジュウカラ、スズメ、ツバメ、ヒバリ、ヒヨドリ、ホオジロ、ムクドリ、メジロ、ヤマガラ、センダイムシクイ、ジョウビタキ、ヤマシギ?

◎観察した樹木：アオキ花、ミツバアケビ花、アセビ、ウツギ、ウワミズザクラ蕾、クヌギ、コナラ、コバノミツバツツジ、サクラ、ナガバノモミジイチゴ花、ニワトコ実、ヒサカキ花、モチツツジ蕾、ヤブツバキ花、ヤマザクラ花、ヤマツツジ、ニガイチゴ花、ミヤマガマズミ、アオモジ花

◎観察した草花：カキドオシ花、キツネノボタン、キュウリグサ、キランソウ花、ゲンゲ花、シュンラン花、ショウジョウバカマ花、タネツケバナ花、チゴユリ花、ナルコユリ、ノビル、ハハコグサ、ホトケノザ花、ムラサキケマン花、ムラサキサギゴケ花、ヤエムグラ、カンサイタンポポ花、セイヨウタンポポ花、ヒメオドリコソウ花、オオバコ、ナズナ、カラスノエンドウ花、スズメノエンドウ花、カスマグサ花、スマレ花、タチツボスマレ花、ツボスマレ花、キクバスマレ花、ヒメスマレ花、オオイヌノフグリ花、タチイヌノフグリ花、ハコベ花、ウシハコベ花、ツクバキンモンソウ花

◎参加者：安藤香子、犬伏百合子、太田理、久保幸子、鈴木永子、武田良子、田中光彦、山田良之・美鈴、保全協会受付6名（以上15名）

\*\*\*\*\*会員交流コーナー\*\*\*\*\*（メール発信者・敬称略）

◇メーリングリスト配信より◇

§§<天野川のユサギ>久しぶりに天野川を歩きました。川風が冷たかったです。ユサギも水の中で震えながらこらえていました（添付）（平 研・12/28）

§§<トウネズミモチ>天野川の堤防のトウネズミモチが、実をたわわに付けたテーブルでヒヨをもてなしていました。やがてレンジャクもテーブルについてくれたらいいですね。（平・12/29）

§§<飯盛山初日の出>あけましておめでとうございます。好天に恵まれ飯盛山で初日の出を迎えました。（西村寿雄・1/1）

§§<ヤマタチバナ>この雪の 消（け）残る時に いざ行かな 山橋の 実の照るも見む 大友 家持（万葉集—4226）家持が越中の国府で詠んだ歌です。

12月に雪が降れば、この光景をカメラに収めることができる。毎年期待しているが、12月にはめったには降ってはくれない。1月になると山橋（ヤブコウジ）の実はシロハラなどに食べられてこの光景には会えない。大晦日と2日の雪、もしかしてと、ほしだ園地への山道を疎林に入って探し廻りました。実を付けているものはなく、駄目かと諦めて帰ろうとしたとき、1個だけ実を付けたのが1本、目に飛び込んできました。会えました（添付）。今年はよいことが重なりそうな。（平・1/3）

§§<深北緑地>今日深北緑地に行ってヒドリガモを見てきました。おじいさんと孫の女の子がパンをちぎって餌やりをしていましたが、2m近くまで寄って餌をねだっていました。ドバトと競争です。私などがそばに寄っても逃げません。パンとオオパンは池の中から恐る恐るの様子を見ているようでした。（田中光彦・2/4）

§§<鶴見緑地>鶴見緑地大池の鳥も人間が来ると、寄ってきます。昨年、北側ですがアオサギとユサギが沢山集まっているのでその方向を見ましたら餌を与えている人がいました。1日も見てきましたが、オナガガモがそばで見れました。とてもきれいでした。15日は他の調査が有るので行けませんが、たぶん見れると思います。ところで、1月に淀川左岸の中津毛馬間を歩きましたが、ホシハジロ、キンクロ、スズガモなどいそうな鳥の中で、ヒドリガモを見ませんでした。汽水域ではヒドリは少ないのですか？（北川ちえこ・2/5）

§§<寝屋川市環境展示会>寝屋川市自然を学ぶ会山田さんより表記の展示参加のご連絡頂きました。当地ビオトープ田原里山の会も参加させて頂いています。北河内自然愛好会コーナーも配慮して頂いて、総会時の田中さんの花の名当てクイズを展示してもらっています。2/5～11 寝屋川市総合センターで行われています。皆さまご都合がつかましたら是非ご覧ください。（太田理、・2/7）

§§<花博公園のカモ>昨日、花博公園（鶴見緑地）に行きました。今年も多くのカモが餌を貰っていました（添付）。何種類いるのでしょうか。これらはほとんどがシベリヤ方面からはるばる餌を求めて、海

山越えてやってきて、ここで栄養を蓄えて、春には子育てのためにシベリヤ方面へと帰ります。2月15日の探鳥会を楽しみにしてください。(平・2/7)

§§<炬燵鳥見>寒さにいじけて、もっぱらの炬燵からの鳥見です。添付はメジロやスズメたちを追い出してリンゴを独り占めしたヒヨです。満腹になって、警戒心もなく、着ぶくれたその姿、いつもはズル賢さとしぶとさを思わせるヒヨですが、和みますね。(平・2/10)

§§<キマダラカメムシ>今日の松塚バードウォッチングの途次、天野川の柵の杭に巨大なカメムシ(成虫越冬のキマダラカメムシ)がいました(添付)。このカメムシは、東南アジアのほうから近年北上してきたカメムシで、去年植物園でも見られました。これから交野でも増えていくことでしょう。(平・2・12)

§§<キマダラカメムシ>キマダラカメムシの画像拝見しました。昨日届いた大阪自然史博物館友の会発行の Nature study にもキマダラカメムシの生態が掲載されていました。温暖化の影響か虫たちにも変化がみられるようになりましたね。(西畑・2/12)

§§<炬燵鳥見>炬燵からの庭では今、ツバキが春を告げています。ヒヨがピンクのツバキの花びらをパクリ、美味しそうに食べました。メジロは赤いツバキの花びらに止まって蜜を吸っています。ツバキはメジロに、花びらに止まって蜜が吸えるように花びらを厚く、強く仕立てました。ヒヨに食べさせるための花びらではなかったはずなのに…。でも、ヒヨも蜜を吸い花粉を媒介してくれるから、これぐらいはしゃーないか、サービスしとこか…。「花と鳥の共進化の過程？」(平・3/3)

§§<カスミサンショウウオ>12日にカスミサンショウウオの観察に行ってきました。卵塊が2ヶ所見つけただけで、上に掘られたところは確認できませんでした。(西畑・3/14)(写真は例会報告に掲載。)

§§<ウメにメジロ>15日の交野市民カワセミ観察会(天野川)での写真です。満開のウメにメジロが蜜を舐めている姿があちこちで見られました(添付)。写真3枚目は撮影時はウメとばかり思っていたのですが、帰って画像を写してみたらウメの花ではおかしいので、メールしたらサクラだと渡辺晋一郎さんに教えてもらいました。今頃満開の桜があるのですね。何というサクラでしょうか。教えて下さい。(平・9/9)

§§<花咲く春>彼岸の中日、暖かさに誘われて植物園へ。1、2、カタクリがわが世の春を満喫していました。3、星の滴のオオイヌノフグリは暖かい日差しを花びらいっぱいを受けて、輝いていました。4、ロゼットの姿で地べたに張り付いて寒風をやり過ごして春を迎えたタンポポも、春に会えた喜びを花咲かせていました。(平・3/21)

§§<タンポポ調査>タンポポ調査・西日本 2015 実行委員のメンバーでもある関係で、アナウンスをさせていただきます。ご存知と思いますが、3月より、「タンポポ調査・西日本 2015」が始まっています。三重・福井から佐賀・福岡までの西日本一帯でタンポポを調べる「タンポポ調査・西日本 2015」が行われています。

調査方法は簡単で、関心のある方ならどなたでも参加できます。タンポポの咲いている場所を見つけて、場所(地図・経緯度・メッシュのいずれか)を調査用紙に記録し、花(あればタネも)とともに調査事務局に送付するだけです。

この調査では参加者が身近な地域で探して採ったタンポポをもとに、西日本で各種のタンポポの分布を調べて解析を行います。在来種と外来種の分布状況から、地域ごとに自然環境に対する人為の加わり方の強さを測ってみます。19府県ごとに集めたデータから、隣の市町村、府県の様子も分かります。雑種タンポポについても、専門家が参加して DNA 解析により現状を調べます。専門家が協力することで、



市民だけではできなかった学術的にも裏付けられた調査となり、専門家だけではできなかった詳細な調査が可能となっていて、市民と専門家がタッグを組んだユニークな調査となっています。

大阪など一部地域では 1970 年代からの調査データが蓄積されており、経年変化が追える調査ともなっています。できるだけ多くの方の参加をお待ちしています。関心のある方は、ぜひ下記ホームページにアクセスしてみてください。ホームページ：<http://gonhana.sakura.ne.jp/tanpopo2015/>（北大阪では、北摂地域（特に島本町、高槻市、豊中市、摂津市）、交野市、東大阪などのデータが少ない状況です）（廣寄由利恵・3/23）

§§<ホームページ>以前に立ち上げたホームページの《顔》が定まらなかったのですが平さんの写真を入れて再びアップしました。会報などカラーで見られます。検索で「北河内自然愛好会」を入れて cc-net ホームページを見て下さい。ML ホームページ：<http://www.cc-net.or.jp/~ja3aeh/3shizen/3-kitakawati.htm>（西村・3/28）

§§<TV 出演>会員；波多野恵子さんが 8ch15:50～の『ゆうがた LIVE ワンダー』でげんきおばーさんとして紹介されます。波多野さんの活躍状況を見てのお楽しみです。（稲原・3/30）

§§<シロハラ春色>冬から春にかけて、庭に居ついてしまったわが家のシロハラも、地味ながらも深い艶を秘めた春の装いを見せるようになりました（添付）。ふる里への北帰行が近づいたのでしょうか。（平・3/31）

§§<ウグイスカグラ>今、私市植物園でウグイスカグラが可憐な花を咲かせて（添付）、ウグイスに神楽舞いを呼びかけています。でも、ウグイスは「ホー法華経」、仏教のお経を唱えながら神道の神楽を舞う、面白い組み合わせですね。「ウグイスの神楽舞い」、ウグイスのしぐさをよく観察した人の発想ですね。（平・4/4）

§§<ウグイスカグラ>ウグイスカグラのきれいな画像拝見しました。遅ればせながら、我が家のウグイスカグラは今、満開です。時々メジロが来て花の蜜をついばんでいます。20 年ほど前、穂谷の朱智神社の近くで採集し、挿し木したものが根づいて今にいたっています。（西畑・4/4）

#### ◎会員異動について（敬称略）

入会：犬伏百合子（寝屋川市・2/15）、今田順子（東大阪市・3/5 2006 年以來の再入会）

退会：田中敬子（枚方市・2/4）

◎編集後記◇4 月例会の朝、田中光彦さんがふと「この例会 365 回目やなあ。1 年 365 日ぐるっと回って・・・。」本会創立 30 周年と相俟って、感慨深そうな言葉でした。◇本文記事とカラー版を見比べると、記事の近くにモノクロ写真を配してもらう方が見やすいとお声をいただいています。が今回はできていません。ワードで編集していますが、写真を入れるとあちこちに飛んで行ってしまい、收拾がつかないことがよくあります(>\_<)エクセルでやればいそうですが、まだ習得できていません。ご了承ください<m(\_)>◇ホームページについては 1 ページタイトル下のアドレスになりますが、インターネットで「北河内自然愛好会 cc-net」で検索すればご覧いただけます。◇編集等について皆様のご意見ご要望、またお気軽なご投稿をお願いいたします。（太田）

【諸連絡の窓口】 ◇会の代表者・会長：西畑敬一 072-876-8114

◇会費の納入・会計に関して：稲原良三 072-892-8507

◇会報の投稿・編集に関して：太田理 0743-79-9665 会員交流コーナーなども太田宛メールか郵送で送ってください。 ma36ux75ml@kcn.jp 〒575-0013 四條畷市田原台 7-5-2

北河内自然愛好会 年会費 1000 円 郵便振替 00970-4-103735

目 次

北河内自然愛好会 2015 年総会 太田 理-----1  
第 363 回例会「鶴見緑地で野鳥観察会に参加して」 森南山岳部-----2  
平さん追記-----2  
太田追記-----3  
第 364 回例会記録「究極の生き残り法・野草を摘んで食す」 中原賢治-----3  
北川さん追記-----4  
第 365 回例会「下田原の里山」 太田 理-----5  
感想文「里山調査に参加して」 立川美砂子、紅葉-----6  
会員交流コーナー-----7~9  
会員異動、編集後記-----9  
カラーグラビア-----別刷り 1~2

本会会員・岡田雅彦氏画  
「フタリシズカ」

